

第103回
全国高校野球選手権
福島大会
第2日・1、2回戦

第103回全国高校野球選手権福島大会第2日は8日、いわき市のいわきグリーンスタジアムなど5球場で1、2回戦10試合を行った。
会津若松市のあいづ球場では会津北嶺が葵との同支部対決を10-2の八回コールドで制し、前身の若松一時代を含め28年ぶりに福島大会1勝を挙げた。いわきグリーンスタジアムでは、喜多方が保原に10-9で競り勝ち、今春の学校統合後、公式戦初勝利となった。

会津北嶺28年ぶり夏1勝

コールドで葵下す



「会津北嶺」葵 最後の打者を三ゴロに打ち取り、喜ぶ会津北嶺ナイン

「この学校で上へ」戦う集団に進化

◇あいづの回戦
会津北嶺
312000100310
1100000000210
(八回コールド)
葵 (北嶺) 宮城、青川、大田、利富山
(葵) 石原歩、半沢、五十嵐、渡部
▽三塁打 歌川(後藤北)
土屋(葵)▽二塁打 五十嵐(大田利)、青川(北嶺)
笠間(葵)▽盗塁 北5、箕間(葵)北0、葵1▽奪三振 北6、葵3▽与四死球 北7、葵6▽暴投

新たな歴史

会津北嶺 主将の後藤 誇りに充実感

2017(平成29)年に校名が変わった会津北嶺は、旧若松一時代を含め1003年(平成28)年の夏の大会勝利をつかみ取った。主将の後藤裕希は新たな学校の歴史を生んだ誇りに胸に充実感を漂わせた。

勝利までは長く険しい道のりだった。同校は2018年に野球部を再結成したが、部員数が足りず助っ人を募って大会に出場した年もあり、結果はなかなか出ていなかった。後藤は東京都の中学に通っていた時代、会津北嶺の練習会に参加して進路を選んだ。「先輩たちと一緒だ」と誓った。

野球部の不屈の精神に導かれ、今では県外出身者が多く集まるようになった。戦う集団へと進化したチームは、スローカーに「超攻撃野球」を掲げている。練習時間の大半を打撃練習に割いて磨き上げた打撃で初戦は10得点を奪い、八回コールドで3回戦に進んだ。主将の後藤は「どんどん打って一つ一つ勝利を積み重ねたい」と誓った。

五十嵐(葵)
(球)長沼(葵) 荒井、鈴木 渡部
▽試合時間 2時間10分
【評】10得点の北嶺が会津支部同士の対決を制した。北嶺は一回に五十嵐の適時二塁打などで3点を先制し、小刻みに加点。八回には長打を絡め3点を奪い、勝負を決めた。葵は序盤に2点を返したが、中盤以降は好機を生かせなかった。

▽葵・渡部舜ノ介(主将、捕手としてチームをまとめる)3年生が3人しかいないチームだったが、2年生たちと一つになって悔いなく戦うことができた。